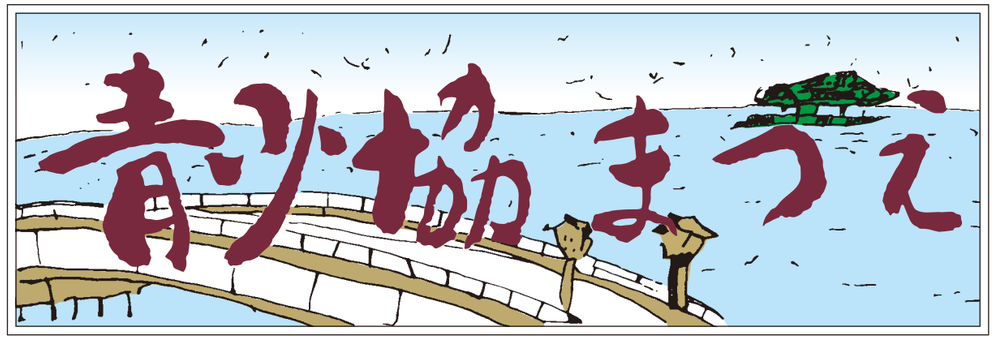


松江市青少年育成連絡協議会機関紙

No.46

発行
令和元年
11月

時の流れと現実の中で

松江市青少年育成連絡協議会
会長　岡　賑　悟

キャッシュレス決済、AIによる自動運転、スマホ（スマートフォン）等々、進展は速く、背いて通れないほど日常化している。

スマホ・携帯電話について、10年前の09年に文部科学省は「小・中学校は持ち込みを原則禁止」「高校は校内での使用を禁止」の通知を出した。松江市も同様の扱いだ。

ところが、昨年大阪で大地震があり、ブロック塀で児童が死亡した。「子供の安否確認ができず不安だった」とスマホなどの持ち込みを認めて欲しいとの要望が相次いだ。そこで大阪府教育庁は検討の結果、今年3月に取扱いのガイドライン（※1）を発表した。内容は「登下校中の安全・安心のために携帯電話の所持を『一部解除』」「保護者には子供に携帯電話を持たせるかどうかの判断、またその管理について責任がある」「使用は登下校中の防災や防犯に限定」「学校では電源を切ってかばんの中に入れる」「学校は情報機器との向き合い方の指導を積極的に行う」と明示している。

しかし「学校への持ち込みの一部解禁」となれば、今まで持たせなかった家庭も所持の方向へいくと思われる。所持には弊害も懸念され、賛否両論ある。皆さんのご意見はどちら？

反対意見は「金銭負担」「使い過ぎと学力低下に相関関係がある（※2）」や歩きスマホ事故も心配等である。

また「ネット依存症の疑いのある中高生は17年度93万人で7人に1人」と推計され、WHO（世界保健機関）がゲーム障害を新しい依存症と認定したことで不安が増大した。

賛成意見は「災害時の安否確認や緊急時の連絡手段の確保」「新学習指導要領の『情報の技術』に活用できる」等である。

7月、将来就きたい人気職業に「eスポーツ」の記事（※3）があった。首位は女子が教員、男子がスポーツ選手―その内訳で初めてコンピューターゲームの腕前を競う「eスポーツ」が入った。eスポーツは競技人口が世界で1億人。年齢、性別、体格、障がいの有無に左右されない。誰でも対等に勝負できるスポーツ（※4）である。今年の茨城国体でeスポーツの都道府県対抗選手権が開催された（※5）。私は時代の変化を感じた。

表1（※6）のように「スマホ・携帯電話の所有・利用率」は増加の現状もあり、文部科学省は方針を検討する方向で5月に有識者会議を設置した。児童生徒の健康面や安全面、教育活動への影響、管理のあり方、学校や保護者の負担等について議論を進める（※7）としている。

私は所持を認めるべきだと思っている。

ただ、未来を創る青少年には良くも悪くも影響は大きい。スマホにのめり込んで費やす時間を自分で制限するのはなかなか難しい。

依存症にならないようにするには、人生の目標をしっかりもつことではないだろうか。そのことで「自分の行動をコントロールする」「スマホを使う」この二つの均衡を保つことができる。これを見守り・支える大人の存在が大切である。

表1 青少年のスマホ・携帯電話の所有・利用率

	小学生	中学生	高校生
平成22年度	２０％	４９％	９７％
平成29年度	５５％	６６％	９７％

（平成30年2月　内閣府調査）

（※1）31年3月27日大阪府教育庁発表「小中学校における携帯電話の取扱いに関するガイドライン」
（※2）元年9月1日付け、山陰中央新報「争論・スマホの学校持ち込み」
（※3）元年7月10日付け、山陰中央新報
（※4）元年9月8日付け、山陰中央新報
（※5）元年10月6日付け、読売新聞
（※6）30年2月内閣府「平成29年度青少年のインターネット利用環境実態調査結果」
（※7）元年6月1日付け、ICT教育「ニュース

編集・発行　松江市青少年育成連絡協議会　事務局　松江市末次町86 松江市教育委員会生涯学習課 TEL 55-5291

松江市青少年育成連絡協議会・各地区青少年育成協議会では

こんな事業をしています！

総会

◎令和元年度総会◎

子どもの健全育成研修会

小学校区・中学校区で講演会・意見交換会等の研修を実施しています。

湖北中

◎ジュニアリーダー研修会◎

竹矢

◎研修会「わけぇもんやらこい！」◎

大野

◎母校訪問◎

湖東中

◎イン・リーダー養成研修会◎

自立と社会参加

八雲

◎家族ふれあいの集い「みんなでおすしをつくろう！」◎

白潟

◎夏休み子ども公民館「嫁ケ島探訪」◎

美保関

◎世代間交流事業「七夕会」◎

城西

◎親子カヌー体験◎

少年見守りパトロール事業

子どもたちの安全のため、パトロールや見守り活動を実施しています。

持田

◎「子どもの見守り安心・安全」講演会◎

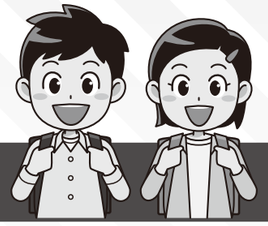
有害図書の回収事業

平成30年度は6,583冊の有害図書類を黄色いポストで回収しています。

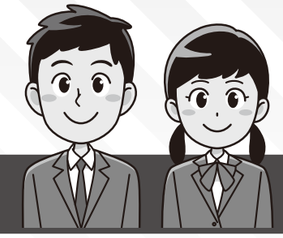
家庭・地域における啓発活動

- 青少年の非行・被害防止全国強調月間 7月
- 子供・若者育成支援強調月間 11月

◎この印刷物は環境に優しい植物油インクを使用しています。



子どもの健全育成研修会実践発表会



実践発表の中から活動の一部を紹介します

「内フェス2018を終えて…。今回も大事なことに気付かせていただきました。」

内フェス実行委員・城西公民館子ども育成部
理事　川岡　あゆみ

◎事業の目的・期待する効果

このお祭りのルーツは三十五年前から学校行事で縦割り班活動として行われていた「内小まつり」です。この祭りを復活させたいという卒業生の一言から始めたもので、現在はPTA有志による実行委員で運営しています。大切にしている事は次の二つです。

【じっくり考える】

内フェスのメインでもある『子ども商店街』に出すお店は、子どもたちが「やってみたい」「こんなお店があれば面白そう」とイメージを描く所から始まります。自分たちの考えるお店をイメージ通りに開店するために、友だちや先輩たちと対話をしながらの根気のいる作業になります。

にぎわう子ども商店街

【まずやってみる】

お祭りの当日には思ってもみないアクシデントも起こります。その時々で起こる事象に「臨機応変に対応する」経験をし、『やってみたらできた！』『やってみたら面白かった！』を体感することを大切にします。

◎事業の内容・対象

内容は子どもたちのやってみたいを実現する「子ども商店街」をはじめ、PTAさやの会の本格的な「お化け屋敷」、みんなで「防災食を作って食べてみよう」、二万発の水風船が飛び交う「水風船バトル」です。対象は、全校児童、保護者、地域住民、興味を持たれた方です。

一中生も大活躍

◎スタッフの心構え

子ども商店街の保護者の見守りスタッフについては、『安全に失敗させよう！』を合言葉に手や口を出さず「見守ること」をお願いしています。実行委員の大学生、高校生には、子どもたちの意見をうまく引き出せるように声掛けや、問いかけをお願いしています。あとは、自分が楽しむこと！

◎学校・家庭・地域等との連携・協力方法

学校には、施設や備品の利用、各家庭へお知らせを依頼しました。多くの先生方にも当日に参加をしていただきました。地域には、公民館だよりで周知し、子ども育成部に参加依頼しました。同じ千鳥の杜学園である松江一中生にはボランティアスタッフとしてお手伝いをしてもらいました。

ふりかえりはしっかりと！

◎事業を終えて

毎回内フェスを終えて感心することは、「子どもたちの発想がとても自由で豊かな事」。子どもから大人までいろんなお客さんのことを考えている優しさ。大人では考えつかないユニークさ。

それに比べて私たち大人がもう少し時間的な余裕を持ち、子どもの気持ちに寄り添うことができたなら、地域や社会全体がもう少し寛大であったなら、子どもたちの持っているチカラが十分に発揮できるのではないか？「子どもの育つチカラを奪っているのは、私たち大人なのかもしれない」と考えてしまいます。

◎今後の課題

【見守りスタッフの募集・育成】

『安全に失敗させよう』という合言葉はあるものの、子どもがもたもたしているとやはり手を出して助けようとしてしまうのが親心。子どもたちが自分で考えることができるようにどのような声がけがよいかを考えていきたい。

【実行委員である卒業生の募集・育成】

かつての「内小まつり」を知っている世代が現在高校生以上。斜め上の関係の高校生や大学生、親ではない地域の大人とのふれあいを創っていきたい。

水風船バトル始球式

「あさひにこにこパーク2019」

朝日地区青少年健全育成協議会
会長　田辺　厚志

◎事業の目的・期待する効果

（目的）

今年度の「あさひにこにこパーク」は、子ども大人も皆で一緒に考え準備して、創り上げていく遊びの場にしたいと考えました。子どもたちが遊びを自ら創り出す創造性、仲間と共に試行錯誤する協調性を育て、出来上がった時の達成感を、地域の人と一緒に分かち合える事業にしたいと考え実施しました。

（期待する効果）

創造性、協調性、達成感を味わうことで創り上げることの楽しさを実感する。

子どもたちが企画したものを地域全体が後押しすることで、世代を超えて交流し、お互いを理解し合う。

◎事業の内容・対象

（内容）

○願いを込めた短冊で七夕飾り
○手作りミニゲーム
○水鉄砲とミニプール
○ペットボトル工作
○駐車場で巨大落書き
○バルーンアート
○水風船合戦
○そうめん流しなど

（対象）

幼稚園児、保育園児、小学生とその保護者

大賑わいのそうめん流し

◎スタッフの心構え

子どもも大人も思いっきり遊べる場所を作るために、子どもたちがやってみたい事は何なのかを一緒に考え準備しました。出来ないと思えるようなアイディアも、何か出来る方法があるのではないかと諦めずに考えました。手伝ってくださった中学生や大学生の意見も取り入れて皆で創り上げる事を常に意識しました。

ペットボトル工作「ホタルをつくろう」

◎学校・家庭・地域等との連携・協力方法

○事前の打ち合わせ、小学校等への参加呼びかけと中学校へスタッフ協力の呼びかけ。
○学校を通したチラシ配布による親子参加の呼びかけ。
○公民館だよりにて地域の皆さんへの呼びかけ。

水風船合戦のスタート！

◎事業を終えて

前年度の経験を踏まえて、今年度は「子どもも大人もとことん遊ぼう」を合言葉に企画しました。普段なかなか体験出来ないような事が体験できる場を創ろうと準備しました。その結果、たくさんの親子連れが来てくださり、中学生や大学生のお兄さんお姉さんも一緒になって、水遊びをしたり落書きをしたり、流れてくるそうめんを並んで食べたり、たくさんの「にこにこ」に出会えたと思います。

水風船合戦は、夢中になって水風船を投げ合う姿がとても印象的でした。

また、上級生が下級生の面倒を見ながら仲良く遊んでいる姿や、皆で一緒に掃除・後片付けをしている姿がとても微笑ましく感じました。

大学生のお姉さんと一緒にバルーンアート

◎今後の課題

今回の目的や期待していた効果は、概ね達成出来たように感じます。

今後も子どもたちの「やってみたい事」が実現できるように、我々大人たちが、常に柔軟に取り組んで行こうとスタッフ一同改めて確認し合いました。